

道徳教育推進協議会からの提案

宮城県教育委員会

平成27年3月に学習指導要領の一部改正が行われ、道徳の時間が「特別の教科 道徳」として位置付けられました。この道徳教育の大きな転換は、心と身体の調和のとれた人間を育成するという観点から道徳教育の充実を図るとともに、いじめ問題や不登校問題を改善する重要な手立てとなるものです。

宮城県教育委員会では、有識者等で構成する道徳教育推進協議会において今年度4月に義務教育課ホームページに掲載した「提案」を基に「特別の教科 道徳」の実施を含めた道徳教育の充実に向けた協議を行い、下記のようにまとめました。

各学校におかれましては、このことについて検討いただき、実情を踏まえた取組を進めていただきますようお願いいたします。

道徳教育の推進に向けた取組

1 道徳教育の全体計画の改善① 児童生徒・学校・地域の協働をととした重点目標の設定

校長の明確なリーダーシップのもと、道徳教育推進教師を中心として、児童生徒や学校の実態、地域の協働教育や志教育の全体計画等をふまえ、児童生徒の調和のとれた道徳性を育成するための重点目標を設定し、全体計画を改善していきましょう。

2 道徳教育の全体計画の改善② いじめ問題や不登校問題の改善に資する重点目標の設定

「主として自分自身に関すること」「主として他の人とのかかわりに関すること」についての内容の充実を図ることで、自他を尊重し、支え合うことのできる児童生徒の育成の充実と、いじめ・不登校等の問題の改善につながる重点目標を設定しましょう。

3 よりよく生きるための基盤となる力を育てる「道徳の時間」の指導の充実

授業づくりの5つのポイントをもとに指導過程を構成しましょう。

- (1) 読み物資料の登場人物の心の動きや葛藤する場面に視点を当てた発問の絞り込み
- (2) 児童生徒が自分と向き合い、考えを表現し、話し合う（道徳の時間用のノートに書く・交流する）機会の確保

「書くこと」の意義

- ・書くことで、立ち止まって自分と向き合うことができる。
- ・書くことで、自分がどんな考えなのかを確かめることができる。
- ・書くことで考え、感性を豊かにすることができる。
- ・書くことで、考えの変化や深まりを振り返ることができる。
- ・書くことで自分の考えを大切に、自尊感情を高めることができる。

<宮城教育大学名誉教授 相澤秀夫氏による>

- (3) 児童生徒の考えを評価し、具体的にほめたり認めたりする機会の確保
- (4) 多様な児童生徒の感じ方や考え方の違いなどを視覚的に整理する板書の工夫
- (5) 価値観の押し付けをせず、児童生徒の体験などとの関連を図るまとめの工夫

4 地域に根ざした郷土資料（みやぎの先人集等）の活用

副読本の使用とともに、内容項目に合致した場面での「みやぎの先人集『未来への架け橋』」等を指導計画に位置付け、各学校の実態等をふまえた特色ある指導をしていきましょう。

5 道徳教育に関する情報の発信と授業の公開

保護者や地域の方々へ学校の道徳教育の全体計画や取組を知らせるとともに、道徳の授業を広く公開しましょう。